

第六十七回帝國議會、貴族院議事速記録

昭和十年一月二十九日 國務大臣發辯

國務大臣（廣田弘毅君）

尙英米其他ニ對スル日本ノ外交ノ根本ノ考ハ何處ニアルンダト云フ御質問ニ對シマシテハ、私ハ日本ハ不幸ニシテ滿洲問題ノ爲ニ聯盟脫退ノ已ムヲ得ザルニ至ツタノデアリマスガ、是ハ聯盟ヲ脫退シタカラト云ツテ世界カラ離レタモノテナイ、聯盟ハ一ツノ會議ノ場所デアツテ、其會議ニ列席シナイカラト云ツテ會議ヲ組織スル各國トノ國交ガ其儘斷絶スルト云フヤウナ意味ノモノデハナイ、從ヒマシテ私ハ日本ト致シマシテハ今日世界何レノ國トモ最モ密接ナ關係ヲ附ケテ行クベキダ、特ニドノ國ト結ンデドノ國ニ當ルトカ或ハドノ國ヲ排斥スル爲ニドノ國ト連絡ヲ執ルカト云フヤウナ外交ノ考方ハ寧ロ避ケテ、何レノ國トモ親交ヲ増スト云フ考方デ外交ヲヤルベキモノデアルト信ジテ居ルノデアリマス。一言ニシテ申シマスレバ、萬邦協和ト云フヤウナ氣持テ、私ハ此外交ヲ進ムベキモノデアルト思フノデアリマス。併ナガラ其各國ノ中ニモ自ラ日本トノ利害、關係ガ厚薄ガアリマスノデ最モ利害關係ノ多イ國トハ最モ親シイ關係ヲ付ケナケレバナラヌト云フコトハ當然デアルト思ヒマス。

從ヒマシテ英米の如キ日本トハ最モ大イナル關係ノアル國ニ對シマシテ

ハ、最モ其關係ヲ好クスル方面ニ努力ヲセナケレバナラナイ、是ハ私ノ
 先達テ外交演說中ニモ其意味ヲハツキリ申上ゲタ積リデアルノデアリマ
 ス。此ノ英米トノ關係ヲ考ヘマスニ付キマシテモ、差當ツテハ海軍軍縮
 問題ト云フノガ其間ニ存在イタシテ居ルノデアリマス。此軍縮問題ノ將
 來ニ對スル私ノ考モ、其演說中ニ申述べタ通りデアリマシテ、何トカシ
 テ此軍備縮小ニ關スル協定ヲ、先ヅ英米トノ話合ニ於テ進メテ行キタイ
 從ヒマシテ今日帝國政府ノ最モ重キヲ置キマス點ハ協定成立ニ在ルノデ
 アリマシテ、從ヒマシテ協定ガ成立セナイ場合ノコトナドハ、實ハ私ハ
 頭ニ浮ベルコトスラ宜クナイト考ヘテ居ルノデアリマスノデ、將來ドウ
 シテ行クカト云フコトヲ御尋ニナリマスト、無論平和的ノ工作ニ依ツテ
 進ムベキモノダトハ申上マスガ、私ハ協定ガ出來ナカツタ場合ノ措置ヲ
 今日カラ考ヘルコトハ甚ダ自ラ遺憾トスルヤウナ氣持モ致スノデゴザイ
 マス。

文書ノ出所竝ニ成立ニ關スル證明書

自分、近藤英明ハ貴族院貴記官ノ職ニ居ル者ナル處、茲ニ添附セラレタル
日本語ニ依ツテ書カレ貳頁ヨリ成ル第六十七回貴族院議事速記録ト題ス
ル書類ハ日本政府（貴族院）ノ保管ニ係ル公文書ノ拔萃ノ正確ニシテ眞
實ナル寫シナルコトヲ證明ス

昭和二十二年三月十八日 於東京

近 藤 英 明

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ爲サレタリ

同日 於 同 所

立會人 小野 寺 五 一